

瀬戸内国際芸術祭へヒアリングに行ってきました

1. 瀬戸内国際芸術祭（せとうちこくさいげいじゅつさい、英題: *Setouchi Triennale*）

瀬戸内国際芸術祭は瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代美術の国際芸術祭で、3年ごとに開催されるトリエンナーレ形式となっています。

- ・第1回 2010年に開催
- ・第2回 2013年に開催

瀬戸内の島々には伝統的な文化や美しい自然景観が残っています。しかし、今、島々は高齢化、過疎化により活力を失いつつある。瀬戸内国際芸術祭はその開催を通じ、島の住人と世界中からの来訪者の交流により島々の活力を取り戻し、島の伝統文化や美しい自然を生かした現代美術を通して瀬戸内海の魅力を世界に向けて発信し、地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指しています。芸術祭は、瀬戸内の島々を中心とした各地に展示される美術作品、アーティストや劇団・楽団などによるイベント、地元伝統芸能・祭事と連携したイベントなどで構成されています。

2. 調査の目的

瀬戸内国際芸術祭の成り立ちを、まずはそれを支えているボランティア組織及びその運営方法、また、行政の取組状況や地域住民の関わり合いをヒアリング調査することにより、阿蘇地域での地域活性化の一つの手法としてこうした取組みが有効かどうかその一端を伺うものです。

3. ボランティアサポーター「こえび隊」について

(1) 瀬戸内こえびネットワークの概要

特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワークは、3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭において、恒常的に活動しているボランティアサポーターの事務局機能を担っていると共に、豊島の「島キッチン」運営や公式グッズの販売など、芸術祭をはじめアート瀬戸内全般を支える活動を通して、島間や行政、民間機関などの媒介者として機能することを目的としています。（法人設立は平成23年2月。代表理事は北川フラム氏）

(2) 活動の内容

- ①瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーターこえび隊の運営事業
- ②アート瀬戸内の作品管理・運営に関する業務（作品）
- ③アート瀬戸内イベントの企画・運営に関する業務
- ④島行事への積極的な参加による島との相互連携活動事業
- ⑤島キッチン運営及び物販事業
- ⑥ガイド事業

⑦他地域とのネットワーク構築及び本法人の質的向上を目指す事業

(3) こえび隊の設立、ボランティア登録者、事業内容

瀬戸内国際芸術祭は、香川県と企業、ディレクター、スタッフ、そして地元の方々、芸術祭の舞台となる島に住んでいる方々との幅広い関係者で成り立っているため、それらの“つなぎ役”としてのボランティア組織が不可欠だとの北川氏の発案により募集を行い2009年10月に発足しました。こえび隊の名前の由来は、豊かな里海に不可欠な長寿を象徴するめでたい食べ物の海老であり、海老のように元気で、豊かに年齢を重ねてきたじいちゃん、ばあちゃんたちの笑顔が瀬戸内に一人でも多く増えることを願って命名されたものです。

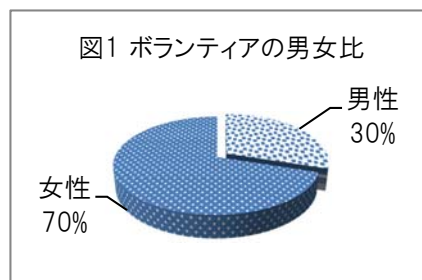
こえび隊募集方法については、ネットでの募集や高松市内や岡山で説明会を開催すると共に、何度も少しずつ呼びかけ、現在は、こえび隊のメンバーが知り合い等に声をかけ口コミで集まっており芸術祭が始まってからも増えています。(表1)

(表1) ボランティア登録者数と実働人員

開催年	登録者数	実働人員数
2010	2,600人	800人
2013	4,200人	1,300人

ボランティアの中で熱心にやっている100～200名は無料の寮に泊まり込んで活動している人もいるとのこと。平均年齢は31歳で最高齢者は91歳の男性。ボランティアの職業内訳としては社会人(会社員、教員)が多く、中には親子、祖父母と孫で参加する人もいるとのこと。事務局では、若い方が集まると思っていたが、社会経験のある彼らには、接客、お金の管理、ウェブサイトなど自分が得意なことを発揮しながらやってもらっているとのこと。

県別の登録者数は香川県と岡山県で50%、33都道府県で50%。県外からの参加でも高松市までの旅費・食費は自費で、宿泊についてはこえび寮(40名まで宿泊可能)に宿泊する者は無料となっています。



こえび隊の仕事は芸術祭開催前より始まり、内容としては作品の設置場所となる空家掃除や空地の草刈、作品素材集め、アーティストの作品制作、設置サポート等が主な仕事になっています。

芸術祭開催期間中は島や作品の案内、イベント、島レストランの手伝い、ガイド等を行い、平日で20名休日では100名程のボランティアが活動しています。

また、ボランティアが休日の日には作品の鑑賞者となりボランツーリズム¹が行われています。

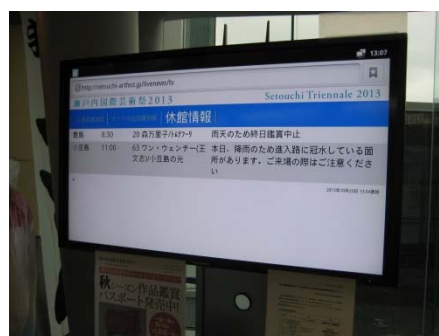
¹ ボランツーリズムとは、ボランティアと旅行がセットになった社会活動です。

会期が終了すると作品の撤去や通年の活動としての広報活動、通年展示している作品のメンテナンス、島行事の手伝いなどを行い、島に通う内に住民と接する機会が増え信頼関係が構築され、島の祭りや運動会、草刈等に呼ばれ会期以外でも忙しいとのこと。

ボランティアが集まる理由としては、芸術に興味があることはもちろんのことだが、終身雇用から転じバイト等を行い生活している若者の増加、人生の隙間がある人が多くなったことが上げられそうです。また、人との繋がりを楽しむ人や島の生活、食等を楽しむのを楽しみにしている人、1作品1人担当という責任ある仕事に魅せられて集まってくる人もいるとのこと。

(4) 来客者等について

7月20日から9月1日までに開催された夏会期への来場者へアンケート調査を実施した結果、回答者の6割以上が香川、岡山県以外を占めた。その中で関東が約38%で最も多く、関西の約30%を上回る。国外では台湾、韓国、フランスが多い。芸術祭の会場となっている両県以外でも高い知名度を誇る様子が見えられます。来場者は3年に1度の開催ということで2年間貯金し、開催年に来るという人もいるとのこと。



各会場の休館・混雑情報
(メインインフォメーションセンター)

宿泊数については、2泊3日が最も多く、7日間滞在し各島を巡る来場者もあり宿泊数も増えていきます。2010年開催時には、3ヶ月余りの開催期間中の各会場への来場者数は約93万人と当初予想の3倍を超える盛況ぶりでホテルやフェリーの利用者が増えるなど大きな波及効果がみられたため、香川県は芸術祭を有力な観光資源ととらえ3年ごとに開催することを決定しました。

高速道路の週末値下げや島の人口減少問題に直面するフェリー業界も多い日には1日5便ほど臨時で運航し、宿泊施設も盛況で芸術祭期間中の宿泊客数は宿泊施設の組合加盟者平均で前年比13%増を記録したということです。若者を中心に安いホテルから予約が埋まり、2泊以上滞在する観光客が目立ったとのこと。

4 行政の取組について (小豆島)

芸術祭の予算措置については実行委員会への負担金、各種スタッフ(各港のインフォメーション職員・展示担当ボランティア・駐車場警備員等)の人件費やワークショップ開催経費、芸術作品としてのトイレを建設など小豆島町単独で予算化を行っています。



町が整備したモダンなトイレ(小豆島町)

また、芸術作品を展示する空き家等の情報収集と所有者との交渉、芸術家との調整など行政の関与が必要ですが、フェリー、バス、宿泊者増等による夏会期経済効果は大きいことがうかがわれます。

第1回(2010年)開催時は1箇所であったが、本年度は島全体での取組みとなったため、職員の約40%が地区担当として作品展示場所やワークショップ・地区でのイベント開催時に対応しています。

地区によって違いがあるものの作品作りから手伝う地区、公民館等を利用しお茶等を出すおもてなしについては各地区で行っており、提供施設を地区で準備する所もあります。

おもてなし対応については、直接的には住民に潤いはないが、若い人との交流を楽しむに行っており、小中学生と芸術祭の関わりは芸術家が学校に行きワークショップを開催してくれるので触れ合いが生まれています。

芸術祭のメリットとして住民が一番感じていると思われる点は、観光客が増えたことと観光客や長期滞在している芸術家が自分達には感じない違った島や地区の魅力を発信してくれること。また、男木島では休校中の小中学校が芸術祭効果で復活するなどメリットも多いとのこと。

5 地域住民について

作品が展示されている土地所有者は、来客者が平日で最高約400名程度、休日になると最高で1300名程度が訪れ恩恵を受けた。行政、ボランティアはこの会場にはいないため、地区の住民で案内を行っているとのことで、日頃話もしない住民同士が話す機会ができたり、老人会がコスモス畑の整備を行うなど地区住民全体が明るくなりました。

また、芸術家と仲良くなり東京に呼ばれたり、観光客とも仲良くなり再来するときはオリーブ収穫を手伝ってくれたり、自分の家に宿泊するなど知人が増えたことが嬉しいと話す住民もある。



「オリーブのリーゼント」(清水久和氏作)



来場者のため住民が整備したコスモス畑



作家のサインボード

(参考)瀬戸内国際芸術祭2013来場者数集計

(瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局発表資料 2013.11.5)

(単位:人)

会場名	2013の総来場者数(108日間)				2010の総来場者数 (105日間)
	春会期(33日間) 3月20日～4月21日	夏会期(44日間) 7月20日～9月1日	秋会期(31日間) 10月5日～11月4日	計	
直島	63,558	116,104	85,741	265,403	291,728
豊島	21,033	61,807	47,283	130,123	175,393
女木島	11,257	26,117	20,208	57,582	99,759
男木島	11,436	20,671	17,605	49,712	96,503
小豆島	46,707	84,063	65,587	196,357	113,274
大島	1,271	1,621	1,652	4,544	4,812
犬島	13,276	24,364	24,169	61,809	84,458
沙弥島	77,693	—	—	77,693	—
本島	—	—	28,372	28,372	—
高見島	—	—	24,371	24,371	—
粟島	—	—	32,412	32,412	—
伊吹島	—	37,706	—	37,706	—
高松港周辺	10,582	48,760	8,818	68,160	72,319
宇野港周辺	6,201	14,157	15,766	36,124	—
合計	263,014	435,370	371,984	1,070,368	938,246

* 来場者数のカウントについては、来場者数を直接的に計測することは困難であることから、各島において集落のパランスなどに配慮して基準施設を設け、その合計数をその島の来場者数として集計されている。

6 考察

○瀬戸内国際芸術祭実行委員会について

瀬戸内国際実行委員会構成は、会長に香川県知事を据え、そのもとに国(四国経済産業局他)や、県、参加市町村に加え各経済団体・民間企業・大学研究機関・NPO等民間団体が参集する形となっており、運営資金等を確保するためにも実行委員会のメンバーが重要であると考えられます。また、参加市町村においても実行委員会への会費以外の予算化が必要であると共にボランティアの確保や職員の支援体制など課題も明らかになりました。

○ボランティアサポーター活動について

瀬戸内国際芸術祭を支えるボランティアサポーターの存在は観光客と島をつなぐ中間支援組織として重要であり、4000名にのぼる登録者の芸術に対する関心が高いことがうかがえました。また、登録者の多くが社会人経験者であり、個人の経験した専門

分野が活動に活かされているのも興味深く、ボランティア活動の合間には自らが鑑賞者として会場を巡るボランツーリズムが成立している点に、単に物見遊山の観光とは異なる文化背景を見て取れました。

○地域住民の反応について

芸術家等との交流活動が地域住民の意識改革や地域そのものを見直すきっかけとなり、過疎化・高齢化で停滞する地域コミュニティの復活や芸術祭を通して地域活性化に自ら住民が参加する機運が生まれました。